

2-7 福島県東部におけるラドン観測 (Ⅲ)

Radon Observations in the Eastern Part of Fukushima Prefecture (Ⅲ)

東京大学 理学部

脇田 宏・中村裕二・佐野有司

Hiroshi Wakita, Yuji Nakamura, Yuji Sano

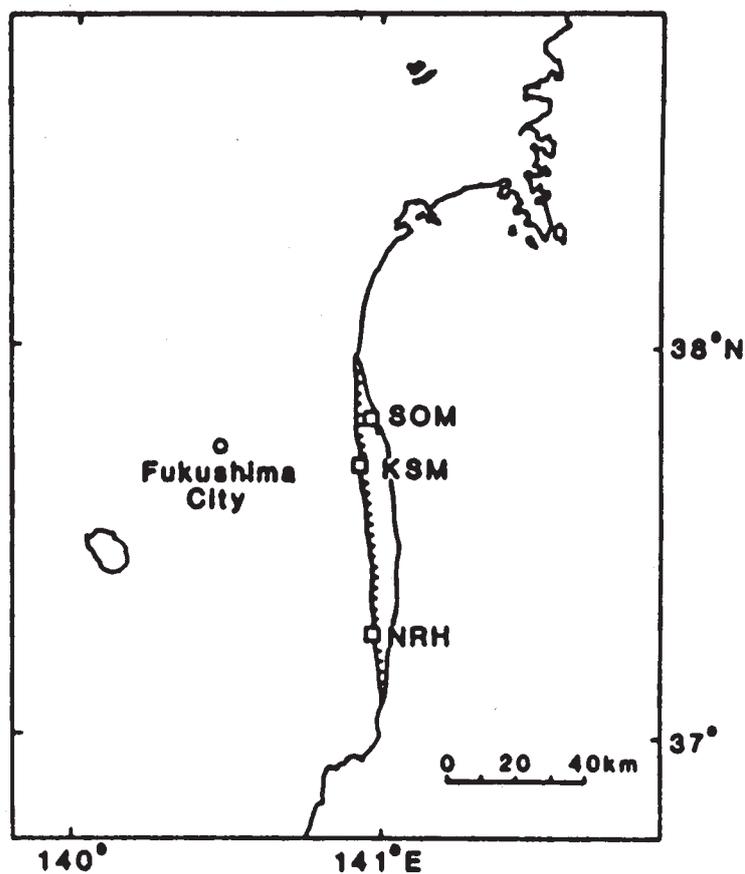
Faculty of Science, The University of Tokyo

前報¹⁾にひきつづき、福島県東部における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1983年11月から1984年11月まで)を報告する。

今回報告する結果は、第1図に示す鹿島(KSM)及び楢葉(NRH)の2地点である。第2図はKSM, NRHにおける記録で、前回と同様に1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均値を、この期間の平均値に対する相対値で示したものである。今回の平均値はKSM, NRHとも誤差の範囲内で前回報告した平均値と一致する。長周期の変動(年周変動)は両者とも良く似ており、夏期に高く冬期に低いパターンを示す。ただし、ピークの位置は多少ずれている。連続記録に見られる短周期の変動は、主として気圧変動による影響と考えられる。

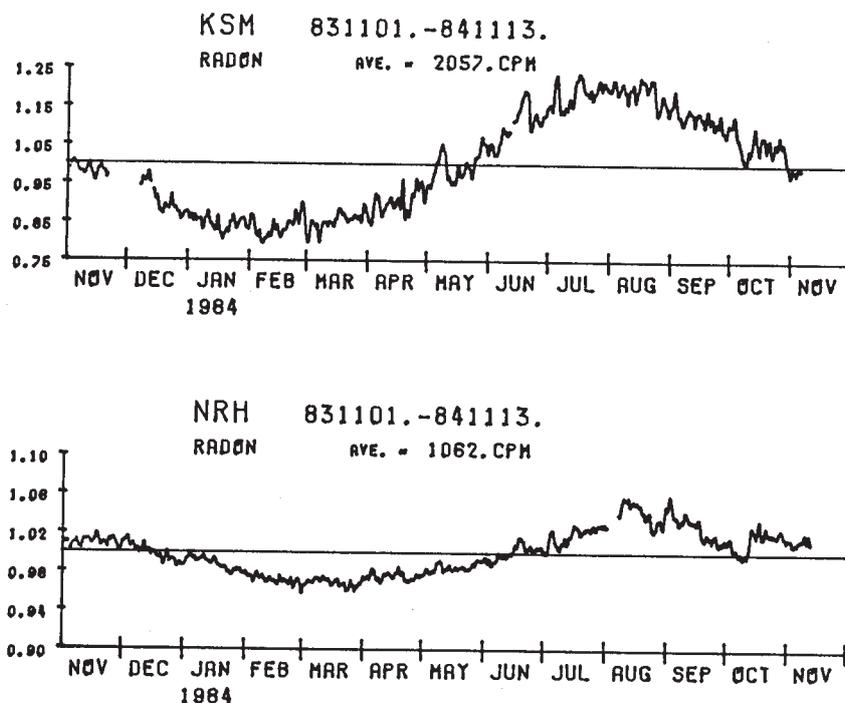
参 考 文 献

- 1) 脇田 宏・中村裕二・佐野有司:福島県東部におけるラドン観測(1983), 連絡会報, **31**(1984), 97 - 98.



第1図 福島県東部の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the eastern part of Fukushima Prefecture (SOM: Soma, KSM: Kashima and NRH: Naraha).



第2図 KSM (鹿島), NRH (楢葉) における地下水中のラドン濃度の変化 (1983年11月～1984年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at KSM (Kashima) and NRH (Naraha). (November, 1983 - November, 1984).